

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】令和 2 年 5 月 21 日 (2020.5.21)

【公表番号】特表 2019-519138 (P2019-519138A)

【公表日】令和 1 年 7 月 4 日 (2019.7.4)

【年通号数】公開・登録公報 2019-026

【出願番号】特願 2018-558146 (P2018-558146)

【国際特許分類】

H 0 1 P 5/02 (2006.01)

H 0 4 B 5/00 (2006.01)

【F I】

H 0 1 P 5/02 C

H 0 4 B 5/00 Z

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 4 月 12 日 (2020.4.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

システムであって、

モジュールであって、基板と、前記基板上の導波路結合器と、前記基板上の無線周波数 (R F) 回路であって、前記導波路結合器に結合される、前記 R F 回路と、前記基板を囲んで収容するハウジングであって、ポート領域を有する表面を含む、前記ハウジングとを含む、前記モジュールと、

前記導波路結合器と前記ポート領域との間で前記モジュール内に配置され、その端部に結合される第 1 の共振器を有する第 1 の導波路であって、前記導波路結合器から発せられる近接場及び / 又はエバネセント的に結合される電磁エネルギーを前記ポート領域を介して伝搬する、前記第 1 の導波路と、

それ自身に結合される第 2 の共振器を有する第 2 の導波路であって、前記第 2 の共振器が前記第 1 の共振器から或るギャップ距離により離間され、前記ギャップ距離の一部が前記ポート領域により形成される、前記第 2 の導波路と、

を含む、システム。

【請求項 2】

請求項 1 に記載のシステムであって、

前記第 2 の共振器が前記第 2 の導波路の端部に結合される、システム。

【請求項 3】

請求項 1 に記載のシステムであって、

前記第 2 の導波路が前記第 1 の導波路に対して前記第 1 及び第 2 の導波路の間の前記ギャップ距離を有する「 T 」交差構成で整合され、前記第 2 の共振器が前記 T 交差部において前記第 2 の導波路の或る側に配置される、システム。

【請求項 4】

請求項 1 に記載のシステムであって、

前記第 1 の導波路と前記第 2 の導波路とが金属導波路である、システム。

【請求項 5】

請求項 1 に記載のシステムであって、

前記第 1 の共振器と前記第 2 の共振器との間のギャップに配置される 1 つ又は複数の付加的な共振器を更に含む、システム。

【請求項 6】

請求項 1 に記載のシステムであって、
前記第 1 の共振器が導電性開ループである、システム。

【請求項 7】

請求項 1 に記載のシステムであって、
前記導波路結合器が、前記 R F 回路要素からのシングルエンドフィードを備える短絡ループである、システム。

【請求項 8】

請求項 1 に記載のシステムであって、
前記導波路結合器が差動的にフィードされるループである、システム。

【請求項 9】

システムであって、
基板と、
その端部に結合される第 1 の共振器を有する第 1 の導波路と、
前記基板に形成され、それ自身に結合される第 2 の共振器を有する第 2 の導波路と、
前記基板上に形成される誘電体層と、
を含み、
前記第 1 の導波路が前記誘電体層上に配置され、
前記第 1 の共振器が、前記第 2 の共振器に近接して配置されて前記誘電層のギャップ距離により前記第 2 の共振器から離間される、システム。

【請求項 10】

請求項 9 に記載のシステムであって、
前記誘電体層がガラスである、システム。